

氏名： 古瀬 奈津子
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士（文学）（1999 東京大学）Ph.D. in Literature
専門分野： 日本史学（日本古代史、特に日本古代の政治制度、儀式、平安時代史）
E-mail： furuse.natsuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

天皇制／律令制／儀式／日唐比較史／日唐関係史

Japanese Imperial System / Code-Statute System / Rituals and Ceremonies / Comparative History of Japan and China / Historical Relationships between Japan and China

◆主要業績

総数（5）件

- ・古瀬奈津子「日本人と中国人の相互関係」『日中歴史共同研究第一期報告書』日中原文編、日中歴史共同研究委員会、2010年1月、201?216頁
- ・古瀬奈津子「日唐宮繕令營造関係条文の検討」『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』平成21年度活動報告書・海外教育事業編（お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム）2010年3月、285-289頁
- ・古瀬奈津子「書評：佐藤全敏著『平安時代の天皇と官僚制』」『法制史研究』59号、2010年3月、241-246頁
- ・学会発表 古瀬奈津子「遣唐使停止の原因と意義」（基調報告）「東亜文化交流？争鳴与共識」国際学術研討会 2009年9月20日、於浙江商工大学日本文化研究所
- ・学会発表 古瀬奈津子「日唐宮繕令營造関係条文的検討」「新史料・新観点・新視角？天聖令国際学術研討会」2009年11月7日、於国立台湾師範大学

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 日中交流史では、日中歴史共同研究の成果として、「日本人と中国人の相互認識」が公表された。国際シンポジウム「東亜文化交流？争鳴与共識」（浙江工商大学日本文化研究所）において、基調報告「遣唐使停止の原因と意義」を行った。
2. 日唐比較研究としては、天聖令を使用した宮繕令營造関係条文の日唐比較研究を行い、国立台湾師範大学における「新史料・新観点・新視角？天聖令国際学術研討会」に招聘され、発表を行うとともに、セッションの司会を任された。論文は『中国法制史研究』に掲載予定である。
3. 平安時代史の研究としては、『法制史研究』59号に、「書評：佐藤全敏著『平安時代の天皇と官僚制』」を掲載した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部では、歴史史料学（日本）、日本史論文講読で、史料の読み方を教示した。日本文化史概論では、安田次郎教員と合同で日本古代・中世史を都市に着目しながら概観した。日本古代中世社会経済史では、10世紀から12世紀までの撰関期について様々な面から論じた。日本古代史料演習では『続日本紀』延暦4年条を講読し、桓武朝初期の政治・社会の変化について考察した。大学院では、『令集解』營繕令と『小右記』寛仁3年条を講読し、律令制の基礎とその後の社会的変化について理解を深めた。卒論・修論・博論については発表会と個別指導を併用した。歴史現地調査では、九州・大宰府周辺を訪れた。
2. 大学院教育改革支援プログラムによるジョイントゼミでは、USC との「グローバル日本古代史をめざして」（2009年8月19日）を担当し、11月には台湾に赴いて、国立台湾大学と「日中文化交流史？日唐令比較研究」研討会を開催して、大学院教育の国際化に寄与した。

◆研究計画

1. 東アジアにおける日本という視点から、日本古代の天皇制研究を進め、日本社会の特質に迫る。
2. 共同研究「日唐宋律令法の比較研究と新唐令拾遺」の編纂（科学研究費による）を継続し、天聖令による日唐令比較研究から、日唐古代社会の本質的差異と歴史的展開の共時性を明らかにする。
3. 平成19年度科学研究費に採択された「文書様式からみた日唐古代官僚制の比較研究」を進展させ、日唐の上表文・奉表文を分析することにより、唐の皇帝と官人の関係と、日本の天皇と官人の関係との違いから、日中における集団と個人の間接関係を考察する。
4. 共同研究「身分感覚の比較的研究」により、従来とは別の見方で、日本古代における身分について考える。
5. 日本学の観点から、海外の日本研究者と共同で、日本の社会と文化について、異なった視点からの学際研究を進める。

◆メッセージ

女子大というと閉ざされたイメージがあるかもしれませんが、お茶の水女子大学の場合それは当てはまりません。サークルだけではなく、ゼミや勉強会を通じて他大学との交流もあります。他大学の単位を取得する制度もあります。お茶大の中だけに閉じこもらずに、積極的に外の世界とのつながりをもつようにしましょう。

ただし、国立女子大学の意義もまたあると思います。現代社会においては、まだ就職や、結婚をし子どもをもった後に仕事を続けようとした場合などに、男女平等とは言えない部分があるのではないのでしょうか。子どもの出生率が下がったままなのは、こうしたことに原因があるのではないのでしょうか。本当の意味において男女がそれぞれの特性をいかして生きていける社会を実現するために、国立女子大学の意義はまだ大きいと言わざるを得ないと思います。